

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
要領名 年月	表紙	電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】 平成25年6月 (平成25年10月1日適用)	表紙	電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】 平成31年3月 (平成31年10月1日適用)
1. 電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】の位置付け	1	電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】の位置付け	1	電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】の位置付け
1.1. 一般事項	1	電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】 地質・土質調査成果電子納品要領(案)	1	電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】 地質・土質調査成果電子納品要領
1.2. 用語の定義	1	イ) 電子成果品 各電子納品要領(案)等※1(以下、「要領(案)」という。) ウ) 電子媒体 地質ガイドラインにおける電子媒体とは、「電子成果品を格納したCD-R または DVD-R」を指します。	1	イ) 電子成果品 各電子納品要領等※1(以下、「要領」という。) ウ) 電子媒体 地質ガイドラインにおける電子媒体とは、「CD-R、DVD-R または BD-R」を指します。
脚注	1	※ 横浜市では地質・土質調査成果電子納品要領(案)を策定していません。国土交通省版を参照してください。 ※ 電子納品要領(案)等：電子成果品を作成する際のフォルダ構成やファイル形式の仕様等について記載したものです。 工事では「工事完成図書電子納品要領(案)」「CAD製図基準(案)」「デジタル写真管理情報基準(案)」、「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」、業務では「土木設計業務等の電子納品要領(案)」「CAD製図基準(案)」「デジタル写真管理情報基準(案)」「測量成果電子納品要領(案)」、「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」を指します。	1	※ 横浜市では地質・土質調査成果電子納品要領を策定していません。国土交通省版を参照してください。 ※ 電子納品要領等：電子成果品を作成する際のフォルダ構成やファイル形式の仕様等について記載したものです。 工事では「工事完成図書の電子納品要領」「CAD製図基準」「デジタル写真管理情報基準」、「地質・土質調査成果電子納品要領」、業務では「設計業務等の電子納品要領【土木編]」「CAD製図基準」「デジタル写真管理情報基準」及び国土交通省の「測量成果電子納品要領」、「地質・土質調査成果電子納品要領」を指します。
1.3. 電子納品の構成 図 1-1 電子媒体に格納される電子成果品のイメージ(業務)	2		2	i-Construction データフォルダ i-Construction に関する電子成果品を格納するフォルダ
脚注	2	※5 国土交通省「CALS/EC 電子納品に関する要領/基準」Web サイト	2	※5 国土交通省「電子納品に関する要領・基準」Web サイト
1.3. 電子納品の構成 図 1-2 電子媒体に格納される電子成果品のイメージ(工事)	3		3	i-Construction データフォルダ i-Construction に関する電子成果品を格納するフォルダ
1.4. 問い合わせ	4	国土交通省「CALS/EC 電子納品に関する要領・基準」Web サイト	4	国土交通省「電子納品に関する要領・基準」Web サイト

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	4	ウ) 国土交通省「CALS/EC 電子納品に関する要領・基準」WebサイトQ&Aページ http://www.cals-ed.go.jp/inq_qanda/	4	ウ) 国土交通省「 電子納品に関する「Q&A」 」 http://www.cals-ed.go.jp/inq_qanda/
	4	Q&Aのページを見ても質問の回答が得られない場合の問い合わせ先は、次のとおりです。 横浜市財政局公共施設・事業調整課 電話045-671-3928	4	Q&Aのページを見ても質問の回答が得られない場合の問い合わせ先は、 以下のアドレスへメールで質問をお願いします。 横浜市財政局公共施設・事業調整課 za-cals@city.yokohama.jp
1.5. 地質ガイドラインに係わる規程類の関係	5	各電子納品要領・基準(案)及び各ガイドライン(案)	5	各 電子納品要領・基準 及び各 ガイドライン
図13 地質ガイドラインに係わる規定類の関係	5	電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】 設計業務等の電子納品要領(案) CAD 製図基準(案) 測量成果電子納品要領(案)(国土交通省) 地質・土質調査成果電子納品要領(案)(国土交通省) 電子納品運用ガイドライン(案)【業務編】 CAD 製図基準に関する運用ガイドライン(案) 電子納品運用ガイドライン(案)【測量編】	5	電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】 設計業務等の電子納品要領 CAD 製図基準 測量成果電子納品要領(国土交通省) 地質・土質調査成果電子納品要領(国土交通省) 電子納品運用ガイドライン【業務編】 電子納品運用ガイドライン【土木工事編】 CAD 製図基準に関する運用ガイドライン 電子納品運用ガイドライン【測量編】
				ICON フォルダの追加 i-Construction 関連要領等
1.5. 地質ガイドラインに係わる規程類の関係	5	(1) 電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】(本書)	5	(1) 電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】 (本書)
	5	(2) 地質・土質調査成果電子納品要領(案) 地質・土質調査の電子成果品を作成する際のフォルダ構成やファイル形式等、電子成果品の仕様等について記載したものです。	5	(2) 地質・土質調査成果電子納品要領 地質・土質調査の電子成果品を作成する際のフォルダ構成やファイル形式等、電子成果品の仕様等について 定めたものです。
	5	(3) 土木設計業務等の電子納品要領(案)	5	(3) 土木設計業務等の電子納品要領
	5	(4) 工事完成図書の電子納品要領(案) 工事の電子成果品を作成する際のフォルダ構成やファイル形式等、電子成果品の仕様等について記載したものです。	5	(5) 電子納品運用ガイドライン【業務編】 業務の発注準備段階から保管管理全般にわたり、電子納品の運用に係わる事項について 定めています。
	6	(5) 電子納品運用ガイドライン(案)【業務編] 業務の発注準備段階から保管管理全般にわたり、電子納品の運用に係わる事項について記載しています。	6	(5) 電子納品運用ガイドライン【業務編】 業務の発注準備段階から保管管理全般にわたり、電子納品の運用に係わる事項について 定めています。

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	6	(6) 電子納品運用ガイドライン(案)【土木工事編】 工事の発注準備段階から保管管理全般にわたり、電子納品の運用に係わる事項について記載しています。	6	(6) 電子納品運用ガイドライン【土木工事編】 工事の発注準備段階から保管管理全般にわたり、電子納品の運用に係わる事項について 定めています 。
	6	(7) CAD 製図基準(案)	6	(7) CAD 製図基準
	6	(8) CAD 製図基準に関する運用ガイドライン(案)(以下、「CADガイドライン」という。)	6	(8) CAD 製図基準に関する運用ガイドライン(以下、「CADガイドライン」という。)
	6	(9) デジタル写真管理情報基準(案) 写真等(工事・測量・調査・地質・広報・設計)の原本を電子媒体で提出する場合の属性情報等の標準仕様を定めています。 撮影した工事写真を用いて電子成果品を作成する際に、ファイル名や属性情報の記入方法などについて記載したものです。	6	(9) デジタル 写真管理情報基準 写真等(工事・測量・調査・地質・広報・設計・ その他)の原本を電子媒体で提出する場合の ファイル名 や属性情報等の標準仕様を 定めています 。
			6	(10) i-Construction 関連要領等 i-Construction に係るデータの作成、格納方法を示すため作成したものです。
1.6. 地質要領に定めるフォルダとファイルの構成	7	地質要領で定められたフォルダとファイルの構成	7	地質要領に 定める フォルダとファイルの構成
表 1-1 地質要領で定められたフォルダとファイルの構成	7	表 1-1 地質要領で定められたフォルダとファイルの構成 BORING 地質データフォルダ BRG0150. DTD DATA ボーリング交換用データサブフォルダ BED0300. DTD DRA 電子簡略柱状図サブフォルダ (P21 ファイル) PIC コア写真サブフォルダ ・コア写真管理ファイル ・デジタルコア写真 ・デジタルコア写真整理結果 CPIC0110. DTD (コア写真管理ファイル)	7	表 1-1 地質要領に 定める フォルダとファイルの構成 BORING 地質データフォルダ BRG0 200 . DTD DATA ボーリング交換用データサブフォルダ BED 0400 . DTD DRA 電子簡略柱状図サブフォルダ (P21 または P2Z ファイル) PIC ボーリング コア写真サブフォルダ ・ ボーリング コア写真管理ファイル ・ ボーリング コア写真 ・ 連続ボーリング コア写真 CPIC 0200 . DTD (ボーリング コア写真管理ファイル) (任意)



電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
表 1-2 電子納品の対象となる地質・土質調査成果(業務)	8	ボーリング柱状図 電子簡略柱状図 BRGnnnn 地質平面図・地質断面図 地質平面図 S0GPnnnZ. P21 地質断面図 S0xxnnnZ. P21 コア写真 コア写真管理ファイル XML COREPIC. XML デジタルコア写真 JPEG Cnnnnmmm. JPG デジタルコア写真整理結果 JPEG Rnnnnkkk. JPG	8	ボーリング柱状図 電子簡略柱状図 BRGnnnn または P2Z 地質平面図・地質断面図 地質平面図 S0GPnnnZ. P21 または P2Z 地質断面図 S0xxnnnZ. P21 または P2Z ボーリングコア写真 ボーリングコア写真管理ファイル XML COREPIC. XML ボーリングコア写真 JPEG Cnnnnmmm. JPG 連続ボーリングコア写真 オリジナル Rkkkk111.*** i-Construction に係る電子成果品 *2) *2) ICON
表 1-2 下段注意書き	8	注 *1) k、nn、mm、xx、kkk、nnn、mmm、nnnn、nnnnnn は、成果品ごとに定められた連番や整理番号などを表す。	8	注 *1) k、nn、mm、xx、kkkk、111、nnn、mmm、nnnn、nnnnnn は、成果品ごとに定められた連番や整理番号などを表す。 *2) i-Construction に係る電子成果品は、関連要領等を参照する。
2. 電子納品の流れ (1) 業務 図 2-1 業務での電子納品の流れ	9		9	i-Construction データの作成
2. 電子納品の流れ (2) 工事	10	工事における電子納品の流れを次に示します。	10	工事における電子納品・電子検査の流れを次に示します。
2. 電子納品の流れ (2) 工事 図 2-2、図 2-3 土木工事における電子納品・電子検査の流れ	10	図 2-2 工事での電子納品の流れ	10 11	図 2-2 土木工事における電子納品・電子検査の流れ (紙の工事帳票を利用する場合) 図 2-3 土木工事における電子納品・電子検査の流れ (工事帳票を電子データで提出する場合)
3. 発注時の準備	11	電子納品に関する要領・基準(案) 設計業務等の電子納品要領(案)(平成〇年〇月)、国土交通省版の地質・土質調査成果電子納品要領(案)(平成〇年〇月) 「電子納品運用ガイドライン(案)【地質・土質調査編】(平成〇年〇月)」	12	電子納品に関する要領・基準 「設計業務等の電子納品要領(平成〇年〇月)、国土交通省版の地質・土質調査成果電子納品要領(平成〇年〇月) 「電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】(平成〇年〇月)」
4. 1. 協議事項	12	ア) 業務中の情報交換方法 イ) 電子成果品とする対象書類 ウ) 電子化が困難な資料の取扱い エ) データシート交換用データの取扱い オ) 検査の方法 カ) その他の事項	13	ア) 業務中の情報交換方法 イ) 電子成果品とする対象書類 ウ) 電子化が困難な資料の取扱い エ) データシート交換用データの取扱い オ) 外部公開の可否 カ) 検査の方法 キ) その他の事項

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
4.3. 電子成果品とする対象書類	13	「1.6 地質要領で定められたフォルダとファイルの構成」	14	「1.6 地質要領に定めるフォルダとファイルの構成」
	13	図面データの納品方法（紙、画像データ、CADデータ）は、表 4 2に示す調査・設計段階での利用頻度やCAD化の難易度を参考としてください。		削除
	14	表 4 2 図面データの種類とCAD化の難易度の例		削除
4.6. 外部公開の可否			15	4.6. 外部公開の可否 ボーリング柱状図、土質試験結果一覧表を一般公開する際に必要となる外部公開の可否を表す公開フラグを記入します。事前協議において、外部公開の可否を発注者が指示し、受注者が成果品データに公開可否コードを記入します。6.6.2. (1) 2)、6.9.2. (2) 2) を参照ください。
4.7. その他の事項	15	イ) 適用した各電子納品要領・基準(案)	15	イ) 適用した各電子納品要領・基準
5.1. 図面の確認	16	CAD 製図基準 (案)	16	CAD 製図基準
	16	SXF ブラウザ等	16	SXF ビューア等
6.1. 作業の流れ 図 6-1 電子成果品作成から電子媒体提出までの流れ	17	SXF ブラウザ等	17	ICON フォルダの追加 SXF ビューア等
6.2.1. 使用文字	18	XML 文章	18	XML 文書
6.3.1. 業務管理ファイルの作成 図 6-2 業務管理ファイル及び DTD	18	http://www.cals-ed.go.jp/index_denshi.htm	18	http://www.cals-ed.go.jp/cri_dtdxml/

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.3.2. 各コード類に関する項目の記入について	18	TECRIS と共通する項目の記入について 業務管理ファイルのTECRISに関する項目の記入については、国土交通省「電子納品に関する要領・基準」Webサイトの「TECRIS資料」を参照し記入します。 http://www.cals-ed.jp/calsec/tecris.htm なお、TECRIS入力システムのバージョンは、「TECRIS (テクリス) /測量調査設計業務実績情報サービス」Webサイトの「入力システムについて」を参照して下さい。 http://www.ct.jacic.or.jp/tecris/input01.html 例えば、「TECRIS入力システムVer. 4.0」の場合は、「業務実績システムバージョン番号」に「4.0」と記入してください。 なお、電子納品作成支援ツールには、TECRISから出力されるCSVファイル（TECRIS提出用ディスクのファイルフォーマット）を利用した入力支援機能を備えたものもあります。 図 6-3 TECRIS 資料のページ	18	6.3.2. 各コード類に関する項目の記入について 各コード類に関する項目の記入については、電子納品 Web サイトを参照して記入します。 http://www.cals-ed.go.jp/crj_otherdoc/ 電子成果品作成支援ツール等には、テクリスから出力されるファイル（業務実績データ）を利用した入力支援機能を備えたものもあります。
6.3.4. 境界座標の記入について	20	「境界座標」の測地系は、世界測地系（日本測地系 2000）に準拠します。	19	「境界座標」の測地系は、世界測地系（JGD2011）に準拠します。ただし、境界座標を世界測地系（JGD2000）で取得した場合には、JGD2011 の座標に変換する必要はありません。
	20	http://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html	19	http://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html
6.3.4. 境界座標の記入について	20	 <p>図 6-4 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス</p>	19	 <p>図 6-3 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス</p>
6.4.1. 報告書 ファイルの作成	21	(4) ファイル形式、ファイルサイズ 1冊分を1つのPDF形式ファイルとします。	20	(4) ファイル形式、ファイルサイズ 1冊分を1つのファイルとします。
	21	(6) 打合せ協議簿 打合せ協議簿は、報告書本文の末尾に追加し、報告書ファイルの一部として電子成果品を作成します。	20	(6) 打合せ協議簿 打合せ協議簿は、1つの報告書ファイルとして電子成果品を作成します。

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	21	(7) 使用文字について 要領(案) ソフトウェア CADデータ	20	(7) 使用文字について 要領 ソフトウェア CAD データ
6.4.2. 報告書 管理ファイルの作成 図 6-4 報告書管理ファイル及び DTD	22	http://www.cals-ed.go.jp/index_denshi.htm	21	http://www.cals-ed.go.jp/cri_dtdxml/
6.4.3. 報告書 ファイルの命名	22	ファイル名・拡張子は半角英数大文字とします。なお、現在、一般的に利用されている Windows 等では、拡張子に 3 バイト以上の文字が扱えるようになっていきます。しかし、電子媒体作成のフォーマットは、ISO9660 レベル 1 と定められ 3 バイトを超える文字が扱えないため拡張子が 3 バイトになるように留意してください。	21	ファイル名・拡張子は半角英数大文字とします。報告書オリジナルファイルは拡張子が 4 文字のファイルでも拡張子そのまま格納できます。
6.5. 地質・土質調査成果作成【BORING】 表 6-1 地質・土質調査成果のフォルダ・ファイル構成	24	BORING BRG0150.DTD 地質情報管理ファイル [DTD] DATA ボーリング交換用データサブフォルダ BED0300.DTD ボーリング交換用データファイル [DTD] DRA 電子簡略柱状図サブフォルダ BRGNNNN.拡張子 電子簡略柱状図 [SXF (P21)] PIC コア写真サブフォルダ CPIC0110.DTD コア写真管理ファイル [DTD] COREPIC.XML コア写真管理ファイル [XML] CNNNNMM.JPG デジタルコア写真 [JPEG] RKKKKLLL.JPG デジタルコア写真整理結果 [JPEG] コア写真管理ファイル デジタルコア写真 デジタルコア写真整理結果 TEST 土質試験及び地盤調査サブフォルダ ST0300.DTD 土質試験結果一覧表データ [DTD] BRGNNNN ボーリング及びサイトごとのサブフォルダ AKKKK_03.DTD, BKKKK03.DTD, T_IND_03.DTD, T_GRP_03.DTD データシート交換用データ [DTD]	23	BORING BRG0200.DTD 地質情報管理ファイル [DTD] DATA ボーリング交換用データサブフォルダ BED0400.DTD ボーリング交換用データファイル [DTD] DRA 電子簡略柱状図サブフォルダ BRGNNNN.P21 電子簡略柱状図 [SXF (P21 または P22)] PIC ボーリングコア写真サブフォルダ CPIC0200.DTD ボーリングコア写真管理ファイル [DTD] COREPIC.XML ボーリングコア写真管理ファイル [XML] CNNNNMM.JPG ボーリングコア写真 [JPEG] RKKKKLLL.拡張子 連続ボーリングコア写真 [XXX] ボーリングコア写真管理ファイル ボーリングコア写真 連続ボーリングコア写真 TEST 土質試験及び地盤調査サブフォルダ ST0400.DTD 土質試験結果一覧表データ [DTD] BRGNNNN ボーリング及びサイトごとのサブフォルダ AKKKK_04.DTD, BKKKK04.DTD, T_IND_04.DTD, T_GRP_04.DTD データシート交換用データ [DTD]
6.6.1. 対象となる成果品 表 6-2 ボーリング柱状図の成果品	25	電子簡略柱状図 BRGnnnn.P21	24	電子簡略柱状図 ファイル名 BRGnnnn.P21 または P22

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成	25	ボーリング交換用データの記入項目は、表 6-3に示すとおりです。「O 様式：基礎情報」、「A様式：標題情報」、「B様式：土質・岩種区分」が必須記入項目で、それ以外の様式は調査目的、調査対象や実施した試験の内容に応じて適宜記入します。 土質ボーリングの場合、土質ボーリング柱状図の紙様式で表現可能な項目を記入します。岩盤ボーリングや地すべりボーリングに関する項目も必要に応じて、適宜、記入するようにしてください。岩盤ボーリング、地すべりボーリングについても同様です。	24	ボーリング交換用データの記入項目は、表 6-3に示すとおりです。「O 様式：基礎情報」、「A様式：標題情報」、「B様式： 工学的地質区分名・現場土質名 」が必須記入項目で、それ以外の様式は調査目的、調査対象や実施した試験の内容に応じて適宜記入します
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 1) 記入項目 表 6-3換用データの記入項目	26 27	表 6-3 ボーリング柱状図様式と記入項目の関係 B 土質・岩種岩石・土区分 G2 コア形状区分 G2S コア形状区分判定表 G3 割れ目区分 G3S 割れ目区分判定表 G4 風化区分 G4S 風化区分判定表 G5 変質区分 G5S 変質区分判定表 H 孔内水平載荷試験 J PS 検層 Q1 掘削工程 Q3 掘進速度 V1 地下水検層試験 V2 地下水検層試験詳細データ V3 地下水検層試験判定結果	24 25	表 6-3 ボーリング交換用データの記入項目 B 工学的地質区分名・現場土質名 G2 ボーリングコアの形状区分 G2S ボーリングコアの形状区分判定表 G3 割れ目の状態区分 G3S 割れ目の状態区分判定表 G4 風化の程度区分 G4S 風化の程度区分判定表 G5 熱水変質の程度区分 G5S 熱水変質の程度区分判定表 G6 破砕度 G6S 破砕度判定表 H 孔内載荷試験 J 弾性波速度検層 Q1 削孔工程 Q3 削孔速度 S4 コア質量 V1 トレーサーによる地下水流動層検層 V2 トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ V3 トレーサーによる地下水流動層検層判定結果 【土質柱状図】【岩盤柱状図】【地すべり柱状図】の項目及び注)の記述を削除

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新							
	頁	内容	頁	内容						
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 2) 公開フラグ			26	2) 公開フラグ ボーリング柱状図の外部公開の可否を表 6-4 に示すコードで記入します。発注者は当該調査におけるボーリング柱状図の外部公開の可否について受注者に指示し、受注者はボーリング交換用データに公開可否コードを記入します。特段の理由がない限り、公開可を原則としますが、外部公開不可の場合は、その理由を備考欄に必ず記入します。 表 6-4 公開可否コード <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>コード*1)</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>公開不可</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>公開可</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注 *1) 外部公開の可否を表すコード番号</p>	コード*1)	方法	0	公開不可	1	公開可
コード*1)	方法									
0	公開不可									
1	公開可									
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 3) 経度・緯度情報の記入方法	27	オ) 測地系については、日本測地系（旧測地系）、世界測地系（新測地系）の区分を必ず記入します。	26	オ) 測地系については、日本測地系（旧測地系）、世界測地系（JGD2000）、世界測地系（JGD2011）の区分を必ず記入します。						
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 4) 土質ボーリングにおける岩盤部分の記入方法	27	2) 岩石・土区分の記入方法 イ) 岩石・土コード表に基づき、「B 様式：岩石・土区分」に岩石名（例：砂岩、安山岩など）を記入。 また、柱状図に記載する岩石・土区分の図模様、文字記号（アルファベット、数字による略号）については地質要領の例を参考に、現場の地質状況等を勘案し、適宜設定します（(国土交通省版地質要領【H20.12】付属資料 5 参照）。	27	2) から 4) に移動 4) 土質ボーリングにおける岩盤部分の記入方法 イ) 岩石・土コード表に基づき、「B 様式：工学的地質区分名・現場土質名」に岩石名（例：砂岩、安山岩など）を記入。 以下削除						
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 5) 岩盤ボーリングにおける土質部分の記入方法	29	4) 岩盤ボーリングにおける土質部分の記入方法 岩盤ボーリングにおいて、岩盤に達するまでの土質部分について、硬軟区分、コア形状区分、割れ目区分、風化区分、変質区分、コア採取率、最大コア長、RQD、岩級区分については空欄とし、下端深度情報のみ記入します。	27	5) 岩盤ボーリングにおける土質部分の記入方法 岩盤ボーリングにおいて、岩盤に達するまでの土質部分について、硬軟区分、ボーリングコアの形状区分、割れ目の状態区分、風化の程度区分、変質の程度区分、コア採取率、最大コア長、RQD、岩級区分については空欄とし、下端深度情報のみ記入します。						
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 6) 地すべりボーリングにおける硬軟・相対			28	6) 地すべりボーリングにおける硬軟・相対稠度の記入方法 地すべりボーリング柱状図様式では、硬軟・相対稠度は同一の欄に混在する形で記載するため、ボーリング交換用データでは区間ごとに硬軟、相対稠度のどちらか一方のみ記入を行います。硬軟、相対稠度は下端深度を合わせて記入し、硬軟では空欄、相対稠度では空白を表すコード (00) を記入することで、空白を表します。						

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新																									
	頁	内容	頁	内容																								
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (1) ボーリング交換用データ 7) 算定不能の試験・計測値の記入方法	29	5) 算定不能の試験・計測値の記入方法 ルジオン試験における限界圧力や孔内水平載荷試験における降伏圧力など試験を実施したにもかかわらず、値が測定できない、算定できない場合は「-1」を記入するようにします。	28	7) 算定不能の試験・計測値の記入方法 ルジオン試験における限界圧力や孔内載荷試験における降伏圧力など試験を実施したにもかかわらず、値が測定できない、算定できない場合は「-1」を記入するようにします。																								
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 表 6-8 電子柱状図の様式	29	表 6-7 電子柱状図の様式 <table border="1" data-bbox="452 472 967 628"> <thead> <tr> <th>コード *1)</th> <th>様式の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>土質ボーリング柱状図</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>岩盤ボーリング柱状図</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地すべりボーリング柱状図</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>その他(上記1~3 以外)</td> </tr> </tbody> </table> 注 *1) 電子柱状図の様式の種類を表すコード番号	コード *1)	様式の種類	1	土質ボーリング柱状図	2	岩盤ボーリング柱状図	3	地すべりボーリング柱状図	9	その他(上記1~3 以外)	28	表 6-8 電子柱状図の様式 <table border="1" data-bbox="1220 456 1774 737"> <thead> <tr> <th>コード *1)</th> <th>様式の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>土質ボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>土質ボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>岩盤ボーリング柱状図様式</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>地すべりボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)</td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>地すべりボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)</td> </tr> <tr> <td>99</td> <td>その他(上記以外)</td> </tr> </tbody> </table> 注 *1) 電子柱状図の様式の種類を表すコード番号	コード *1)	様式の種類	11	土質ボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)	12	土質ボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)	21	岩盤ボーリング柱状図様式	31	地すべりボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)	32	地すべりボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)	99	その他(上記以外)
コード *1)	様式の種類																											
1	土質ボーリング柱状図																											
2	岩盤ボーリング柱状図																											
3	地すべりボーリング柱状図																											
9	その他(上記1~3 以外)																											
コード *1)	様式の種類																											
11	土質ボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)																											
12	土質ボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)																											
21	岩盤ボーリング柱状図様式																											
31	地すべりボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用)																											
32	地すべりボーリング柱状図様式(標準貫入試験用)																											
99	その他(上記以外)																											
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (2) 電子柱状図 2) 電子柱状図の用紙 サイズ	29	掘進長	28	削孔長																								
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (2) 電子柱状図 3) 岩石・土区分の模様、文字記号	27	また、柱状図に記載する岩石・土区分の図模様、文字記号(アルファベット、数字による略号)については地質要領の例を参考に、現場の地質状況等を勘案し、適宜設定します(地質要領【H20.12】付属資料 5 参照)。	28	(1) (2) から移動 3) 岩石・土区分の模様、文字記号 柱状図に記載する岩石・土区分の模様、文字記号(アルファベット、数字による略号)についてはボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説の例を参考に、現場の地質状況等を勘案し、適宜設定します。																								
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (3) 電子簡略柱状図 1) 電子簡略柱状図のファイル形式	29	電子簡略柱状図は、CAD データ交換標準に則したフォーマット SXF(P21)形式で納品することが原則です。 CAD ソフトを利用してボーリング柱状図を作図するとファイルサイズが大きくなり、読み込みや書き込みが困難となる場合は、発注者と受注者で協議により暫定的にファイルサイズの大きくなった(30MB 以上)ファイルのみを SXF(SFC)形式にしてファイルサイズを小さくしてください。	29	電子簡略柱状図は、CAD データ交換標準に則したフォーマット SXF(P21)形式または SXF(P22)形式で納品することが原則です。 ファイルサイズの大きいデータの取り扱いについては、CADガイドライン「2.3.2. SXF(P21)形式で作成する際のファイルサイズの大きいデータに関する留意事項」、「5.2.2. 地質・土質調査結果の利用」等を参照してください。																								

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.6.2. ボーリング柱状図ファイルの作成 (3) 電子簡略柱状図 2) 電子簡略柱状図の試験結果	29	2) 電子簡略柱状図の試験・検層データ 電子簡略柱状図の試験・検層データについては、土質ボーリングの場合、標準貫入試験結果の表示が原則です。 岩盤ボーリング、地すべりボーリング、または、土質ボーリングでも標準貫入試験以外の試験・検層データの表示が必要な場合は、調査目的、調査対象に応じて適宜変更しても構いません。 電子簡略柱状図の試験・検層データの表示は、地質要領【H20.12】第2編 7-5、第4編 3-3-7(4)を参考としてください。	29	2) 電子簡略柱状図の試験結果 電子簡略柱状図の試験結果については、土質ボーリングの場合、標準貫入試験結果の表示が原則です。 岩盤ボーリング、土質ボーリング、地すべりボーリングでも標準貫入試験以外の試験結果の表示が必要な場合は、調査目的、調査対象に応じて適宜変更しても構いません。 電子簡略柱状図の試験結果の表示は、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説の試験結果の表示例を参考としてください。
6.6.3. 地質情報管理ファイルの作成	30	掘進長	29	総削孔長
6.6.4. ボーリング柱状図ファイルの命名 図 6-7 ボーリング柱状図のファイル命名	31	電子簡略柱状図 拡張子3文字 「P21」：固定	30	電子簡略柱状図 拡張子3文字 「P21」または「P2Z」
6.6.5. ボーリング柱状図ファイルの格納イメージ 図 6-8 ボーリング柱状図の格納イメージ	31	BRG0150.DTD BED0300.DTD BRG0001.P21~BRGnnnn.P21	30	BRG0200.DTD BED0400.DTD BRG0001.P21~BRGnnnn.P21 または P2Z
6.7.1. 地質平面図・断面図ファイルの作成 (1) ファイル形式	32	SXF(P21)形式	31	SXF(P21)形式または SXF(P2Z)形式
6.7.1. 地質平面図・断面図ファイルの作成 (4) レイヤ名	34	CAD 図面のレイヤ名を構成要素で表すと、[責任主体]-[図面オブジェクト]-[作図要素]-[ユーザ定義領域]となります(図6.10参照)。地質要領に示されていないレイヤ名については、構成要素を考慮してレイヤ名称を新たに設定できます(国土交通省版「地質要領」【H20.12】P3-20、4-30参照)。	33	CAD 図面のレイヤ名を構成要素で表すと、[責任主体]-[図面オブジェクト]-[作図要素]-[ユーザ定義領域]となります(図6.9参照)。地質要領に示されていないレイヤ名については、構成要素を考慮してレイヤ名称を新たに設定できます。その場合は、作成したレイヤ名及び作図内容の概要を図面管理項目の「新規レイヤ名(略語)」「新規レイヤ(概要)」に記述します。
6.7.3. 図面管理ファイルの作成	35	CAD 製図基準(案) ハッチ	34	CAD 製図基準 模様
6.7.4. 地質平面図・断面図ファイルの格納イメージ 図 6-11 地質平面図・断面図の格納イメージ	36	SOGP001Z.P21~SOXnnnZ.P21	35	SOGP001Z.P21~SOXnnnZ.P21 または P2Z
6.8. ボーリングコア写真の整理 【BORING/PIC】	37	6.8. コア写真の整理 【BORING/PIC】	36	6.8. ボーリングコア写真の整理 【BORING/PIC】

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新		
	頁	内容	頁	内容	
6.8.1. 対象となる成果品	37	コア写真 コア写真管理ファイル デジタルコア写真 デジタルコア写真整理結果	36	ボーリングコア写真 ボーリングコア写真 ボーリングコア写真管理ファイル ボーリングコア写真 連続ボーリングコア写真	
6.8.1. 対象となる成果品 表 6-11 ボーリング柱状 図の成果品	37	コア写真 コア写真管理ファイル デジタルコア写真 デジタルコア写真整理結果 ファイル形式：JPRG ファイル名：Rnnnnkkk.JPG 注 *1) nnnn、mmm、kkk は、それぞれ、ボーリング、デジタルコア写真、デジタルコア写真整理結果の	36	ボーリングコア写真 ボーリングコア写真管理ファイル ボーリングコア写真 連続ボーリングコア写真 ファイル形式：任意 ファイル名：Rkkkk111.*** 注 *1) nnnn、mmm、kkkk、111 は、それぞれ、ボーリング、ボーリングコア写真、ボーリング、連続ボーリングコア写真の連番を表す。	
6.8.2. コア写真ファイルの作成	37	6.8.2. コア写真ファイルの作成	36	6.8.2. ボーリングコア写真ファイルの作成	
	37	(1) デジタルコア写真の作成方法 デジタルコア写真は次の 3 つの方法のいずれかを選択して作成します。 ア) デジタルカメラによる撮影 有効画素数が約 200 万画素（ピクセル）を超える撮影機材 を使用して撮影を行います。 イ) フィルムスキャナによる取り込み 35mm カメラなどで撮影したネガをフィルムスキャナで取り込みます。 ウ) スキャナによる取り込み 35mm カメラなどで撮影したプリント写真をスキャナで取り込みます。		左記削除	
	38 39	(2) 撮影方法 コア写真の撮影に当たっては、鮮明な写真が撮影できるように、次の点に留意します。また、写真ごとに大きさ、色調の違い、歪みなどが生じないように十分留意して撮影を行ってください。 1) 撮影時の天候：明るい曇天が望ましい。 2) 撮影時間：朝夕は赤色光が強いので避ける。	36	(1) 撮影方法 ボーリングコア写真は、デジタルカメラで撮影し、必ず、試し撮りを行って、少なくとも約 1mm 以上の解像度の画質を確保するようにします。ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説を参考としてください。	

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
		<p>3) 撮影時の影：直射日光を避け、撮影人物及び周辺建物などの影などに留意する。 4) コアの水分：乾燥したコアは表面を濡らし、色調を明確にする。</p> <p>5) コア表面：付着したスライムや汚れを除去する。</p> <p>6) 諸元情報、色見本：コア写真撮影時には次の 6 項目を合わせて撮影する（図 6-13 参照）。 ア) 業務名称 イ) ボーリング名 ウ) 区間深度、区間標高、孔口標高などの深度、標高情報 エ) 調査業者名 オ) 色見本 カ) その他、必要に応じて採取年月日など</p> <p>7) 写真の撮影範囲：デジタルコア写真におけるボーリングコアの有効幅が極端に異ならないように留意し、約 8 割以上の有効幅を確保する（図 6-14 参照）</p> <p>8) 撮影角度：コア箱と直角で撮影するようにする（図 6-15 参照）。 図 6-13 コア箱の例 図 6-14 コア写真の有効幅（有効画素数 200 万画素の場合） 図 6-15 コア写真の撮影例</p>		
	40	<p>(3) ファイル形式</p> <p>デジタルコア写真のファイル形式は JPEG が基本です。デジタルコア写真の品質を高い状態で保つため、JPEG ファイルはできるだけ圧縮を行わないようにします。デジタルカメラの画像品質の設定については、低圧縮率、最高画質、スーパーファインなど、高品質モードに設定してください。</p> <p>JPEG 形式は非可逆性の圧縮方式を採用しているため、圧縮を行うことにより画質が劣化します。画像ファイルの形式として、JPEG 以外に TIFF、BMP 等があり、これらの画像ファイルは劣化しません。コア写真は色調等が重要であることから、TIFF、BMP 等の形式が適切ですが、市場で流通しているデジタルカメラが JPEG 形式対応であるため、デジタルコア写真のファイル形式を JPEG 形式としています。</p> <p>ただし、受注者が使用する撮影機材が TIFF 形式に対応している、あるいは発注者が TIFF 形式に対応している撮影機材を受注者に貸与することにより、コア写真をより高品質の状態電子データとして保管できる場合は、発注者と受注者で協議の上、コア写真のファイル形式を適切なフォーマットに変更しても構いません。</p>	36	<p>(2) ファイル形式</p> <p>ボーリングコア写真のファイル形式は JPEG が基本です。</p> <p>JPEG 形式は非可逆性の圧縮方式を採用しているため、圧縮を行うことにより画質が劣化します。画像ファイルの形式として、JPEG 以外に RAW、TIFF、その他の形式があり、RAW 及び TIFF では画質劣化しませんが容量とても大きくなるため写真として二次利用するためには汎用的でなく、その他の形式は一般的ではありません。これらのことを考慮して、ボーリングコア写真には JPEG 形式を採用しました。</p>

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	40	<p>(4) 解像度 コア写真は、約 200 万画素を超える有効画素数を確保する必要があります。 200 万画素の写真の場合、およそ 1,600×1,200 画素の解像度を有しますが、コア写真(コア箱)の有効撮影範囲を画面の横幅の 80%とすれば、1,600×0.8=1280 画素となり、1mm 程度の粒子を確認できる解像度を有することとなります。 35mm フィルムをフィルムスキャナで取り込む場合、プリント写真をスキャナで取り込む場合のスキャナ解像度と有効画素数の関係は、表 6-11、表 6-12 を参照してください。 表 6-11 スキャナ解像度(dpi)と有効画素数の関係の例(35mm フィルムの場合) 表 6-12 スキャナ解像度(dpi)と有効画素数の関係の例(プリント写真の場合)</p>		左記削除
	41	<p>(5) 拡大写真 デジタルコア写真 コア</p>	37	<p>(3) 拡大写真 ボーリングコア写真 ボーリングコア</p>
6.8.3. 連続ボーリングコア写真ファイルの作成			37	<p>連続ボーリングコア写真は、1 箱ごとに撮影したボーリングコア写真をコンピュータ上でつなぎ合わせて作成します。 コア箱 5~6 箱をつなぎ合わせ、A4 縦の用紙サイズに収まるように作成します。ボーリングコア写真のように少なくとも約 1mm 以上の解像度を確保する必要はありません。 ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説を参考としてください。</p>
6.8.4. ボーリングコア写真管理ファイルの作成	42	6.8.3. コア写真管理ファイルの作成 コア写真	37	6.8.4. ボーリングコア写真管理ファイルの作成 ボーリングコア写真
6.8.5. ボーリングコア写真ファイルの命名	42	6.8.4. コア写真ファイルの命名 ボーリング柱状図 nnnn デジタルコア写真 デジタルコア写真整理結果 kkk	37	6.8.5. ボーリングコア写真ファイルの命名 ボーリングコア写真 nnnn、kkkk ボーリングコア写真 連続ボーリングコア写真 111

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.8.5. ボーリングコア	42	図 6-16 コア写真ファイルのファイル命名 デジタルコア写真 数字 3 文字：デジタルコア写真の連番(mmm) (001~999) デジタルコア写真整理結果 Rnnnnkkk. JPG 数字 4 文字：ボーリング連番(nnnn) (0001~9999) 数字 3 文字：デジタルコア写真整理結果の連番 (kkk) (001~999) 拡張子 3 文字「JPG」：固定	38	図 6-12 ボーリングコア写真 ファイルのファイル命名 ボーリングコア写真 数字 3 文字： ボーリングコア写真 の連番(mmm) (001~999) 連続ボーリングコア写真 Rkkkk111.*** 数字 4 文字：ボーリング連番(kkkk) (0001~9999) 数字 3 文字：連続ボーリングコア写真の連番 (111) (001~999) 拡張子 4 文字以内
6.8.6. ボーリングコア写真ファイルの格納イメージ	44	6.8.5. コア写真ファイルの格納イメージ コア写真	38	6.8.6. ボーリングコア写真 ファイルの格納イメージ ボーリングコア写真
6.8.6. ボーリングコア写真ファイルの格納イメージ 図 6-13 ボーリングコア写真ファイルの格納イメージ	44	図 6-17 コア写真ファイルの格納イメージ コア写真 デジタルコア写真 デジタルコア写真整理結果 CPIC0110. DTD R00010001. JPG~Rnnnnkkk. JPG	38	図 6-13 ボーリングコア写真 ファイルの格納イメージ ボーリングコア写真 ボーリングコア写真 連続ボーリングコア写真 CPIC0200. DTD R00010001. *** ~ Rkkkk111.***
6.9.1. 対象となる成果表 6-12 土質試験及び地盤調査の成果品	45	土質試験及び地盤調査管理ファイル 備考 XML 文章。	39	土質試験及び地盤調査管理ファイル 備考 XML 文書 。
6.9.2. 土質試験及び地盤調査ファイルの作成 (2) 土質試験結果一覧表データ	46		40	2) 公開フラグ 土質試験結果一覧表データには、ボーリング交換用データと同様、データの外部公開の可否をコードで記入します。
	46	2) 有効桁の考え方 地質要領(案)	40	3) 有効桁の考え方 地質要領
6.9.2. 土質試験及び地盤調査ファイルの作成 (5) デジタル試料供試体写真	48	2) デジタル試料供試体写真の作成方法 デジタル試料供試体写真は次の3つの方法のいずれかを選択して作成します。 ア) デジタルカメラによる撮影 有効画素数 200 万画素以上の撮影機材を使用して撮影を行います。 イ) フィルムスキャナによる取り込み 35mm カメラなどで撮影したネガをフィルムスキャナで取り込みます。 ウ) スキャナによる取り込み 35mm カメラなどで撮影したプリント写真をスキャナで取り込みます。	42	左記削除

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	48	3) 解像度 デジタル試料供試体写真の解像度は、コア写真と同様に有効画素数として約 200 万画素以上となっています。 35mm フィルムをフィルムスキャナで取り込む場合、プリント写真をスキャナで取り込む場合のスキャナ解像度と有効画素数の関係は、表 6 11、表 6 12 を参照してください。	42	2) 画質 デジタル試料供試体写真は、ボーリングコア写真と同様に、少なくとも約 1mm 以上の解像度の画質を確保するようにします。
6.9.3. 岩石試験結果の取扱い	49	協議のうえ	42	協議の上
6.9.5. 土質試験及び地盤調査ファイルの命名	50	イ) nnnn オ) 試験中試験後	44	イ) nnn オ) 試験後
6.9.5. 土質試験及び地盤調査ファイルの命名 図 6-15 データシート交換用データのグラフ、スケッチ情報のファイル命名	53	拡張子 3 文字以内	47	拡張子 4 文字以内
6.9.6. 土質試験及び地盤調査ファイルの格納イメージ 図 6-16 土質試験及び地盤調査ファイルの格納イメージ	54	土質試験結果一覧表データ ST0300.DTD 対応する試験の DTD A1202_03.DTD～ B1931_03.DTD T_IND_03.DTD T_GRP_03.DTD	48	土質試験結果一覧表データ ST0400.DTD 対応する試験の DTD A1202_04.DTD～ B1931_04.DTD T_IND_04.DTD T_GRP_04.DTD
6.10.1. 写真ファイル等の作成	55	デジタル写真管理情報基準(案)	49	デジタル写真管理情報基準
6.10.1. 写真ファイル等の作成 ア) デジタルカメラの設定	55	また、デジタルカメラの有効画素数は、黒板の文字が判読できる程度とします。(100 万画素程度。※13) なお、地質・土質調査におけるボーリングサンプル等のコア写真は、200 万画素以上※14 が必要となります。	49	また、デジタルカメラの有効画素数は、黒板の文字が判読できる程度とします。(100万～300万画素程度。※13)
	55	※14 200 万画素以上(1600×1200)：各メーカーによって違いはありますが、ファイル容量は 600KB～2MB 以上。	49	左記削除
6.10.1. 写真ファイル等の作成 エ) 画像のスキャニング	56	なお、銀塩カメラ等を使用する場合には、写真管理項目に記入する[撮影年月日]とファイル作成日が合わないことを事前協議しておください。	49	なお、銀塩カメラ等を使用する場合には、写真管理項目に記入する[撮影年月日]とファイル作成日が合わないことから、撮影後に銀塩カメラを使用した年月日を監督員に報告してください。
6.10.2. 写真管理ファイルの作成 図 6-18 写真管理ファイル及び DTD	57	http://www.cals-ed.go.jp/index_denshi.htm	51	http://www.cals-ed.go.jp/crictdxml/
6.11.3. その他の地質・土質調査成果の命名	59	半角英数大文字 8 文字以内+3 文字以内(拡張子)	53	半角英数大文字 8 文字以内+4 文字以内(拡張子)

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.12.1. 一般事項	60	カ) 「CAD 製図基準(案)」に準拠した図面 (SXF 形式) を SXF ブラウザ等で表示し、目視により内容を確認します。	54	カ) 「CAD 製図基準」に準拠した図面 (SXF 形式) を SXF ビューア等で表示し、目視により内容を確認します。
	60	測量成果ガイドライン	54	電子納品運用ガイドライン【測量編】
6.12.2. 電子成果品のチェック (1) 横浜市電子納品チェッカーを用いた電子成果品のチェック	60	各電子納品要領・基準 (案) 要領・基準 (案)	54	各電子納品要領・基準 要領・基準
6.12.2. 電子成果品のチェック (1) 横浜市電子納品チェッカーを用いた電子成果品のチェック 図 6-23 電子納品チェックシステムを用いた電子成果のチェック	61		55	ICON フォルダの追加
6.12.2. 電子成果品のチェック (2) 電子成果品作成支援ツール等による管理ファイルのチェック	62	設計業務等の電子納品要領 (案) コア写真管理ファイル 掘進長 「(4) 経度・緯度のチェック」参照 CAD 製図基準 (案)	56	設計業務等の電子納品要領 ボーリングコア写真管理ファイル 総削孔長 「(5) 地質データの位置情報のチェック」参照 CAD 製図基準
6.12.2. 電子成果品のチェック (3) ボーリング柱状図ビューア等によるボーリング交換用データのチェック	63	ビューア等	56	ボーリング柱状図ビューア等
6.12.2. 電子成果品のチェック (5) 基準点情報の経度・緯度のチェック	62	(4) 経度・緯度のチェック http://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html イ) 地図閲覧サービス http://watchizu.gsi.go.jp/ 「測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス」ホームページを利用して、経度・緯度をチェックする方法は図 6-29 のとおりです。 図 6-29 経度・緯度のチェック方法	56	(4) 経度・緯度のチェック http://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html イ) 地理院地図 (電子国土 Web) http://maps.gsi.go.jp/ 以下削除

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.12.2. 電子成果品のチェック (6) 地質データの位置情報のチェック 1) 電子地図プロットによる位置情報のチェック	64	掘進長 地質要領(案)	57	総削孔長 地質要領
6.12.2. 電子成果品のチェック (7) SXF ビューア等を利用した目視確認	66	SXF ブラウザ等 SXF (P21)形式 SXF ブラウザ又は SXF 表示機能及び確認機能要件書(案) (平成 21 年 3 月) に従い開発されたソフトウェア CAD 製図基準 (案) 以下の通り	59	SXF ビューア等 SXF (P21)形式または SXF (P2Z)形式 SXF ビューアまたは CAD ソフト CAD 製図基準 以下のとおり
6.12.3. 電子媒体への格納	67	受注者は、電子成果品をチェックした結果、エラーが無いことを確認した後、電子媒体に格納します。使用する電子媒体は、基本的に CD-R とします。CD-R のファイルサイズに関する規定は特にありませんが、通常流通していない媒体 (650MB、700MB 以外の媒体) を使用する場合は、使用の是非を発注者と受注者で協議により決定してください。また、電子媒体が複数に渡る場合は、発注者と受注者で協議により DVD-R を使用することも可能ですが、当面は、写真枚数が必要最小限とするなど、データ容量の減少に努めてください。このほか、スキヤニングによるイメージファイル化などもデータ量を増大させる要因となることがあるため、注意が必要です。使用する DVD-R のファイルサイズについても、発注者と受注者で協議により決定してください。電子媒体への格納は、書込みソフト等を利用し、データを追記できない方式で書き込みます。なお、CD-R のフォーマットの形式は、ISO9660 (レベル 1) とし、DVD-R のフォーマットの形式は UDF (UDF Bridge) とします。	60	受注者は、電子成果品をチェックした結果、エラーが無いことを確認した後、電子媒体に格納します。使用する電子媒体は、基本的に CD-R または DVD-R とします。CD-R、DVD-R のファイルサイズに関する規定は特にありませんが、CD-R については通常流通していない媒体 (650MB、700MB 以外の媒体) を使用する場合は、使用の是非を発注者と受注者で協議により決定してください。DVD-R については片面 1 層 (4.7GB) 以外の媒体を使用する場合は、使用の是非を発注者と受注者で協議により決定してください。また、データが大容量となる場合には、発注者と受注者の協議により BD-R を使用することも可能です。電子媒体への格納は、書込みソフト等を利用し、データを追記できない方式で書き込みます。なお、CD-R のフォーマットの形式は Joliet、DVD-R のフォーマットの形式は UDF (UDF Bridge)、BD-R のフォーマットの形式は UDF 2.6 とします。
6.12.3. 電子媒体への格納 図 6-28 電子媒体へ格納されるファイル・フォルダのイメージ (業務の場合)	67		60	ICON フォルダの追加
6.12.4. ウィルスチェック	68	ウィルスチェックソフトにはフリーウェアやオンラインのウィルススキャンを使用してもかまいません。なお、・・・・以下省略		削除

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.12.5.電子媒体等の表記 (1)業務における電子媒体のラベル面の表記	68	(h)「フォーマット形式」CD-Rの場合は、フォーマット形式・IS09660(レベル1)、DVD-Rの場合は、UDF(UDF Bridge)を明記。	61	(h)「フォーマット形式」CD-Rの場合は、フォーマット形式・ Joliet 、DVD-Rの場合は、UDF(UDF Bridge)を明記。
6.12.5.電子媒体等の表記 (1)業務における電子媒体のラベル面の表記 図6-27 業務における電子媒体への表記例	69	フォーマット形式：IS09660(レベル1)	61	フォーマット形式： Joliet
6.12.5.電子媒体等の表記 (2)工事における電子媒体のラベル面の表記	69	(h)「フォーマット形式」CD-Rの場合は、フォーマット形式・IS09660(レベル1)、DVD-Rの場合は、UDF(UDF Bridge)を明記。	62	(h)「フォーマット形式」CD-Rの場合は、フォーマット形式・ Joliet 、DVD-Rの場合は、UDF(UDF Bridge)を明記。
6.12.5.電子媒体等の表記 (2)工事における電子媒体のラベル面の表記 図6-30 工事における電子媒体への表記例	69	フォーマット形式：IS09660(レベル1)	62	フォーマット形式： Joliet
	70	(3)電子媒体のケースの表記		左記削除
6.12.6.電子媒体が複数枚になる場合の処置 図6-29 電子媒体が2枚になる場合の作成例(業務の場合)	72		63	ICONフォルダの追加
6.12.7.電子媒体納品書 図6-32 電子媒体納品書(例)	73	規格：IS09660(レベル1)	64	規格： Joliet
6.13.3.電子成果品の基本構成の確認	74	電子納品要領・基準(案) 要領・基準(案)	65	電子納品要領・基準 要領・基準

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
6.13.4. 電子成果品の内容の確認 イ) ボーリング柱状図 データの確認	74	抜き取り ビューア ボーリング交換用データのビューア 「9.1 ビューアの利用」	65	抜き取り ボーリング柱状図ビューア ボーリング柱状図ビューア 「9.1 ボーリング柱状図ビューアの利用」
6.13.4. 電子成果品の内容の確認 エ) 図面【DRAWING】	75	SXF (P21)形式 SXF ブラウザ等 CAD 製図基準(案) 従来通り	66	SXF (P21)形式または SXF (P2Z)形式 SXF ビューア等 CAD 製図基準 従来どおりの
6.13.4. 電子成果品の内容の確認 カ) i-Constructionデータ【ICON】			66	カ) i-Construction データ【ICON】 ファイルの格納イメージや、データの構成については、i-Construction 関連要領等を参照してください。
7. 成果品の検査 (2) 検査で使用する 機器、ソフトウェア等	76	オ) SXF ブラウザ等	67	オ) SXF ビューア等
9.1. ボーリング柱状図ビューアの利用	78	ビューアの利用 ビューアソフト	69	ボーリング柱状図ビューアの利用 ボーリング柱状図ビューア
	78	フリーのビューアソフトの入手方法については、社団法人全国地質調査業協会連合会のホームページ (http://www.zenchiren.or.jp/) などをご確認ください。	69	フリーのボーリング柱状図ビューアの入手方法については、一般社団法人全国地質調査業協会連合会（以下「全地連」という）のホームページ (http://www.zenchiren.or.jp/) などをご確認ください。利用に当たっては、最新のボーリング交換用データに対応しているかを確認ください。

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
9.1. ボーリング柱状図ビューアの利用 図 9-1 ボーリング交換用データ (XML) の表示 (例)	78	<pre> ビューアソフト <?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?> <!DOCTYPE ボーリング情報 SYSTEM "BED0300.DTD"> <ボーリング情報 DTD_version="3.00"> <標題情報> <調査基本情報> <事業工事名>〇〇〇〇道路建設事業</事業工事名> <調査名>平成〇年度〇〇地区地質調査業務</調査名> <調査目的>01</調査目的> <調査対象>02</調査対象> <ボーリング名>B-1</ボーリング名> <ボーリング総数>5</ボーリング総数> <ボーリング連番>0001</ボーリング連番> </調査基本情報> </pre>	69	<pre> ボーリング柱状図ビューア <?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?> <!DOCTYPE ボーリング情報 SYSTEM "BED0400.DTD"> <ボーリング情報 DTD_version="4.00"> <基礎情報> <適用規格>JIS A 0205-2012</適用規格> <適用規格>JIS A 0206-2013</適用規格> <公開フラグ> <公開フラグ_コード>1</公開フラグ_コード> <公開フラグ_備考/> </公開フラグ> </基礎情報> <標題情報> <調査基本情報> <事業工事名>〇〇〇〇道路建設事業</事業工事名> <調査名>平成〇年度〇〇地区地質調査業務</調査名> <調査目的>01</調査目的> <調査対象>02</調査対象> <ボーリング名>B-1</ボーリング名> </pre>
9.2. 電子地図上にプロットできるツールの利用	79	社団法人全国地質調査業協会連合会 (以下「全地連」という)	70	全地連

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
9.3. スタイルシート (XSL ファイル) の活用 図 9-3 スタイルシート (XSL ファイル) を利用した表示 (例)	80	<pre><?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?> <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="BRG0150.XSL"?> <!DOCTYPE BORING SYSTEM "BRG0150.DTD"> <BORING DTD_version="1.50"> <基礎情報> <適用要領基準>土木 200812-01</適用要領基準> </基礎情報> <ボーリング情報> <ボーリング名>B-001</ボーリング名> <ボーリング連番>1</ボーリング連番> <経度> <経度_度>135</経度_度> <経度_分>49</経度_分> <経度_秒>58.2000</経度_秒> </経度> <緯度> <緯度_度>34</緯度_度> <緯度_分>59</緯度_分> <緯度_秒>53.2000</緯度_秒> </緯度> <測地系>0</測地系> <孔口標高>102.00</孔口標高> <掘進長>50.00</掘進長> <柱状図区分>土質</柱状図区分></pre>	71	<pre><?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?> <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="BRG0200.XSL"?> <!DOCTYPE BORING SYSTEM "BRG0200.DTD"> <BORING DTD_version="2.00"> <基礎情報> <適用要領基準>土木 201610-01</適用要領基準> </基礎情報> <ボーリング情報> <ボーリング名>B-001</ボーリング名> <ボーリング連番>1</ボーリング連番> <経度> <経度_度>135</経度_度> <経度_分>49</経度_分> <経度_秒>58.2000</経度_秒> </経度> <緯度> <緯度_度>34</緯度_度> <緯度_分>59</緯度_分> <緯度_秒>53.2000</緯度_秒> </緯度> <測地系>02</測地系> <孔口標高>102.00</孔口標高> <総削孔長>50.00</総削孔長> <柱状図区分>土質 (オールコア用) /柱状図区分></pre>
9.4. 事前協議チェックシート (地質・土質調査用)	81		72	国土交通省の最新版チェックシートに例示を差替え
9.5. ボーリング位置情報チェックシート	83		74	国土交通省の最新版チェックシートに例示を差替え
9.6. 用語解説			76	<p>B BD-R (ビーディーアール、Blu-ray Disc Recordable)BD-R は、ブルーレイディスク (BD) の規格の一つで、一度だけ書込みができるディスクです。容量に空きがあれば追記は可能です。 データを記録する面が 1 層構造、2 層構造のものなどがあり、容量は、1 層で 25GB、2 層で 50GB です。フォーマット形式として、UDF2.6 があります。</p>

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	87	<p>IS09660 フォーマット ISO で規定される CD-R 等での標準的なフォーマットのひとつです。特定の OS (オペレーティングシステム)、ハードウェアに依存しないため、このフォーマットの CD-R は、ほとんどの PC の OS 上で読み込むことができます。</p> <p>IS09660 フォーマットにはレベル 1 からレベル 3 までの段階があり、電子納品に関する要領 (案) ・基準 (案) では、長期的な保存という観点から、IS09660 フォーマットの中でも OS 間での互換性が最も高い「レベル 1」を標準としています。ただし、レベル 1 の場合、ファイル名等の規則は厳しく、「名前+拡張子」の 8.3 形式のファイル名で、使える文字は半角 アルファベットと 0~9 の数字、「_」(アンダースコア)に限られ、ディレクトリ名は 8 文字までの制限があります。</p>	77	<p>IS09660 フォーマット ISO で規定される CD-R 等での標準的なフォーマットのひとつです。特定の OS (オペレーティングシステム)、ハードウェアに依存しないため、このフォーマットの CD-R は、ほとんどの PC の OS 上で読み込むことができます。</p> <p>IS09660 フォーマットにはレベル 1 からレベル 3 までの段階があり、電子納品に関する要領・基準では、長期的な保存という観点から、IS09660 フォーマットの中でも OS 間での互換性が最も高い「レベル 1」を標準としていました。ただし、レベル 1 の場合、ファイル名等の規則は厳しく、「名前+拡張子」の 8.3 形式のファイル名で、使える文字は半角アルファベットと 0~9 の数字、「_」(アンダースコア)に限られ、ディレクトリ名は 8 文字までの制限があり、ワープロソフト等で一般的になった 4 文字の拡張子に対応できないため、Joliet に移行しました。</p>
			78	<p>Joliet (ジョリエット) マイクロソフト社が設計した、IS09660 の拡張規格であり、1文字 2 バイトで表現する Unicode を採用し、128 バイト (64文字) までの長いファイル名に対応しています。流通しているほとんどの OS が対応しており、Joliet を利用できないシステムでも ISO 9660 レベル 1 として読み込めるようになっていたことから、ワープロソフト等で一般的になった 4 文字の拡張子に対応するため、電子納品に関する要領・基準での標準として採用しました。</p>
			81	<p>0 OCF 検定 OCF 検定は、(一社)オープン CAD フォーマット協議会が実施する、CAD ソフトウェアやビューアの SXF 仕様への準拠性を検定するものです。この検定に合格した CAD ソフトウェアやビューアは、SXF データの互換について一定の基準が満たされていることから、目視確認等において、OCF 検定合格のビューア等を使用することとしています。検定内容の詳細については(一社)オープン CAD フォーマット協議会のホームページを参照してください。 http://www.ocf.or.jp/</p>

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	89	<p>SXF ブラウザ</p> <p>SXF 対応 CAD ソフトによって作成された SXF 形式 (P21、SFC) の図面データを表示・印刷するためのソフトウェアで次の URL でダウンロードすることのできる無償提供のツールです。CAD ソフトと違い、編集の機能はありません。</p> <p>SXF ブラウザは、電子納品 Web サイトからダウンロードすることができます。</p> <p>http://www.cals-ed.go.jp/index_dl2.htm</p> <p>また、CAD データ交換標準開発の Web サイトからも上記サイトにリンクが張られています。</p> <p>http://www.cals.jacic.or.jp/cad/developer/SXFBrowserDownload.htm</p>	79	<p>SXF ビューア等</p> <p>SXF ビューア等は、SXF 表示機能及び確認機能要件書(案) (平成 21 年 3 月) に従って開発され、OCF 検定に合格した SXF 形式 (P21、SFC) 図面データが閲覧可能な閲覧ソフト及び CAD ソフトです。オープン CAD フォーマット評議会の Web サイトにある OCF 検定認証ソフト一覧 (以下の URL) で市販の SXF ビューア等が紹介されています。</p> <p>http://www.ocf.or.jp/kentei/soft_ichiran.shtml</p> <p>SXF ブラウザが 2014 年 4 月 9 日をもって提供を終了したことから、今後、SXF データの表示や印刷等は、SXF ビューア等を利用してください。</p>
			80	<p>UDF 2.6</p> <p>2.6 は UDF のリビジョンです。BD-R で採用されます。</p>
	85	<p>CORINS (コリンズ、Construction Records Information Service)</p> <p>「工事実績情報サービス」の略称です。</p> <p>CORINS は、公共事業の入札・契約において、透明性・客観性・競争性を確保することを目的に、公共事業発注期間が共同で利用できる公共実績情報サービスです。(財)日本建設情報総合センターが公益法人という立場で、建設企業からの工事カルテの登録を基に工事実績情報のデータベースを構築し、各公共工事発注機関へ情報提供を行っています。</p> <p>CORINS からの情報提供により、発注者は、建設企業の工事実績の把握及び技術力の適正な評価を行うことができます。また、受注者にとっても、自社の工事実績情報が公共工事発注期間に届きますので、営業支援の役割を果たします。</p>	81	<p>コリンズ (Construction Records Information System)</p> <p>コリンズは、公共事業の入札・契約において、透明性・客観性・競争性を確保することを目的に、公共事業発注機関が共同で利用できる工事実績情報システムです。(一財)日本建設情報総合センターが公益法人という立場で、建設企業からの工事カルテの登録を基に工事実績情報のデータベースを構築し、各公共工事発注機関へ情報提供を行っています。</p>
	91	<p>スタイルシート 要領(案)</p>	82	<p>スタイルシート 要領</p>

電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】

項目	旧		新	
	頁	内容	頁	内容
	91	<p>世界測地系 ・日本測地系 2000</p> <p>世界測地系は、概念としてはただ一つのもので、国ごとに採用する時期や構築に当たっての詳細な手法及び実現精度が異なります。従って、将来、全ての国が世界測地系を採用したとしても、より精度の高い測地基準系を構築する必要があるが生じた場合や、地殻変動が無視できないほど蓄積した場合は、各国の測地基準系を比較したり、ある国の測地基準系だけが再構築されたりします。このため、測地基準系には、構築された地域ごとに個別の名称が付けられています。</p> <p>日本測地系 2000 とは、世界測地系のうち我が国が構築した部分の名称をいいます。命名に当たっては、我が国の測地基準系であること、二千年紀の初頭に構築されたことを意識しています。</p>	83	<p>世界測地系 ・世界測地系 (JGD2000) と世界測地系 (JGD2011)</p> <p>世界測地系は、概念としてはただ一つのもので、国ごとに採用する時期や構築に当たっての詳細な手法及び実現精度が異なります。従って、将来、全ての国が世界測地系を採用したとしても、より精度の高い測地基準系を構築する必要があるが生じた場合や、地殻変動が無視できないほど蓄積した場合は、各国の測地基準系を比較したり、ある国の測地基準系だけが再構築されたりします。このため、測地基準系には、構築された地域ごとに個別の名称が付けられています。世界測地系 (JGD2000) とは、世界測地系のうち我が国が構築した部分の名称をいいます。命名に当たっては、我が国の測地基準系であること、二千年紀の初頭に構築されたことを意識しています。世界測地系に移行した 2002 年 4 月から 2011 年 10 月までの日本の公式測地系でした。世界測地系 (JGD2011) とは、東北地方太平洋沖地震による地殻変動で、測量法施行令が 2011 年 10 月に改正されたことに伴って命名された測地基準系の名称です。</p>
	89	<p>TECRIS (テクリス、 Technical Consulting Records Information Service) 「測量調査設計業務実績情報サービス」の略称です。</p> <p>TECRIS は、コンサルタント企業等の選定において手続きの透明性・客観性、競争性をより高めつつ、技術的に信頼のおける企業を選定するための業務実績情報サービスです。(財)日本建設情報総合センターが公益法人という立場で、コンサルタント企業等からの業務カルテの登録を基に業務実績情報のデータベースを構築し、各業務発注機関へ情報提供を行っています。</p> <p>TECRIS からの情報提供により、発注者は、建設企業及び技術者の業務実績の把握及び技術力の適正な評価を行うことができます。また、受注者にとっても、自社の業務実績情報が公共工事発注期間に届きますので、営業支援の役割を果たします。</p>	87	<p>テクリス (Technical Consulting Records InformationSystem)</p> <p>テクリスは、コンサルタント企業等の選定において手続きの透明性・客観性、競争性をより高めつつ、技術的に信頼のおける企業を選定するための業務実績情報システムです。(一財)日本建設情報総合センターが公益法人という立場で、コンサルタント企業等からの業務カルテの登録を基に業務実績情報のデータベースを構築し、各業務発注機関へ情報提供を行っています。</p>
			87	<p>電子成果品作成支援ツール</p> <p>各電子納品要領・基準に従った電子成果品の作成を支援(管理ファイルの作成やファイル命名規則に従ったファイル名に変換など)することを目的としたソフトウェアをいいます。</p> <p>各電子納品要領・基準</p>